

ハ青。盜ノ瓶。ニ酒ヲ入レテ、青キ薄様ヲ以テ口ヲ裹テ持セタリ、

〔厨事類記〕殿土坑飯略○中

盃三口土器、居、折敷青。盜。瓶子。二口以薄様、裹口

〔源平盛衰記 二十二〕土肥焼亡舞同女房消息附大太郎烏帽子事

安キ程ノ事也トテ、宿所ニ請ジ入奉テ、白瓶子ニ口裹ミ、サマトノ肴ニテモテナシ奉ル、

〔貞丈雜記 七 酒盃〕一唐瓶子之事、鎌倉年中行事云、正月朔日、御座ニ御二重御唐瓶子、同銚子、提有之云

云、唐瓶子とは、かねにてこしらへたる瓶子なり、又は木にて作り、黒ぬりにしたるもあり、かねは

こしらへ唐めきたる故唐瓶子と云なるべし、外に子細なし、

〔長門本平家物語 十九〕昌明をしよせて、かの家をみるに、褐衣に菊とぢしたるよろひひた、れき

たる、をとこの、からへいしにくちつ、みて取出したり、

〔徒然草 上〕大覺寺殿にて、近習の人ども、なぞくをつくりてとかれける處へ、くすし、忠守参りた

りけるに、侍従大納言公明卿、我朝のものども見えぬ忠守かなと、なぞくにせられけるを、唐瓶からへい

子とときてわらひあはれければ、腹だちて退出にけり、

〔成氏年中行事 正月〕一同五日ノ夜御行始、管領へ御出恒例也略○中 御花瓶参時ハ、左手ニテハ御盆

ヲ可持略○中 御唐瓶子樽ナドハ、盆ニヲカズトモ参事アリ、一對ナラバ二度ニ持テ可参、一對御劔

ヲバ先一如常持参テ、カタクヲバ御透ニテ懸御目テ、管領ニテモ又他家ニテモ、亭ノ方へ可預

置、

〔類聚名物考 調度 六〕飾瓶子。かざりへいじ

常の瓶子は銀錫にて作る、柄と口との有るもあり、多く普通のはなし、口のみなり、堂上方にては

平常に瓶子を用ゐられて、銚子を用ゐられず、此外に飾瓶子あり、はれの時儀式には一對置物と